＜平成30年度 体験記の部 最優秀賞＞

業務上過失傷害の疑いで…

（中 部） G運送㈱ H．M

久しぶりに悪夢にうなされ、目が覚めた。全身汗だく、顔は涙でぐちゃぐちゃ、心臓はバクバク、息は上がってとても嫌な気持ちだった。15年も前の事故の夢だ。

夢の内容は、警察の一室で取り調べを受けている途中、事故当時の写真を見せられた瞬間、写真の中の潰れた車の中から血だらけの3人の人達が出てきて、私を睨みつけている。私は「いやー！！！」と叫ぼうとしているのに声がでない。恐怖でパニックになっている時に目が覚めた。事故当時、毎日のようにうなされて見ていた夢だ。15年経ってもまだ心の傷は癒えていないのだ。

当時ドライバーになって2年目、仕事仲間のも恵まれ、仕事にも慣れ楽しい毎日だった。なのに、一瞬の事故で私は楽しい日々を奪われた。

その日も、いつものように、4t車満タンの荷物を積み込み会社に帰る途中だった。信号が青に変わりゆっくり前進し加速しかけた時、いきなり反対車線の軽自動車がセンターラインを越えこちらの車線に入ってきて私のトラックめがけて走って来た。思わず急ブレーキを踏み、左にめいっぱいハンドルを切った。でも間に合わず、ものすごい衝撃でぶつかった。その瞬間は恐ろしくてハンドルにしがみつき顔をうずめていた。しばらく何が起こったのか理解できず放心状態。でもすぐに我に返って、相手を見に行った。

目の前に飛び込んできた光景は、それは、それは酷いもの。おもわず目を覆った。ぐしゃぐしゃに潰れた軽は反対車線に飛ばされ逆方向に向いていた。とにかく安否を確認しなければと駆け寄った。運転席の男性はハンドルに顔をうずめ意識がない。助手席の女性は顔に大量の血を流し放心状態、後ろでは血だらけで泣きじゃくる男の子。とにかく「大丈夫ですかー。大丈夫ですかー。」と叫ぶしかなかった。恐かった。ものすごく恐かった。

そんな時「あなたは何も悪くないですよ。」と血だらけの子供を抱きあげ、あやしながら声をかけてくれた若い男性。

「僕はずっとこの軽の後ろを走っていたけど10何回反対車線に出たり入ったりしていたから。今、警察と救急車を呼んだから落ち着いて。」と。地獄から救われた思いがした。でも救急車が来るまでのたかが5分位の時間が果てしなく長く、長く感じた。

相手は救急車に乗せられ、残された私は警察の現場検証。ぶつかった場所はタイヤ跡ですぐにわかった。4t車が衝突の衝撃で後ろに下がっていた。軽自動車は相当スピードが出ていたようだ。

相手のダメージが大きかった事と内容がわからなかったせいもあり、かなりキツイ言葉で警察の方の質問は続いたが、その時もさっきの男性の証言で警察の方も同情的な口調に変わった。とにかく一生のうちの1番最悪な日だった。

数日後、警察から出頭命令が来た。私は被害者のつもりで警察に行った。第一声「あなたを業務上過失傷害の疑いで取り調べを始めます」。ショックで涙が出てきた。まるで犯罪者だ。5時間にも及ぶ取り調べだった。

相手は1週間程生死をさ迷い、意識を取り戻したと聞いた時にはホッと胸を撫で下ろした。助手席の女性とは元夫婦で男性がよりを戻したい、無理なら一緒に死ぬと発作的に私のトラックに突っ込んで来たとの事。怒りが込み上げてきた！！！！

事故の後、本当に辛い思いをした。右肩を負傷し外科に通うも、相手は他人の車で、心身障害で補償能力はなく、事故では保険も使えない。自分の会社で、労災で面倒見てもらうようにしてもらった。トラックの修理代ももらえず立場は悪い方へ転がりはじめた。怪我が治る前に仕事に戻らなくてはならなかった。ハンドルを握るのが恐くてたまらない。毎晩夢でうなされ眠るのも恐い。外科の先生に精神科に紹介状を書かれた。仕事もやれなくなった。急性ストレス障害と診断され、休職の後、退職、毎日が辛くて苦しくて、何で私が？と泣いてばかりだった。

そんな中、子供達の笑顔、友達の励まし。少しずつ立ち直っていった。また仕事を探そうと思った時、なぜだか不思議だったがトラックに乗りたいと思った。恐いはずなのに、死ぬ程辛い思いをしたはずなのに。でも、この事故で沢山の涙を流し学んだ事も多くあった。苦しくて悔しくて悲しくて辛くて流した涙。大勢の人達に手を差し伸べてもらい、思わず流した嬉し涙。毎日当たり前に生きて来て気付かなかった事を、事故をきっかけに思い出した。私は1人ではない。沢山の人に支えられているんだ。改めて感謝の気持ちがあふれて来た。

もし加害者になってしまったら、その大切な人達を悲しませてしまう。そして相手にも、相手の大切な人達にも悲しい思いをさせ、泣かせてしまう。その立場になる事は耐えられない。「業務上過失傷害の疑いで・・・」2度とこの言葉を聞く事のない様に。私は決して事故を起こしてはいけない。そう思い毎日ハンドルを握っている。事故を教訓に、安全運転を心がけて行きます。

どうか、どうか交通事故で悲しむ人が1人でも減り、みんなが幸せであります様に願わずにはいられません。